

第4回検討会における意見のまとめと対応

(1) 再生プラン全般、目指す姿に関する意見

項目	意見要旨	対応
全般	<p>○公共性が極めて高い場所である点を考慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の環境省の基本的な方針には、賛成である。地元の意見を聞くことは大切であるが、千鳥ヶ淵は公共性が極めて高い場所であることも忘れてはいけない。(高村委員) <p>※検討会後にいただいた意見</p>	ご意見の主旨を踏まえ、再生プランを作成。
目指す姿	<p>○「皇居の森」の説明が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皇居の森との一体性が強調されているが、皇居の森がどういうものかが具体的に書かれていない。プランの中で皇居の森の歴史も説明した方がよい。(小野委員) <p>○皇居の森の生物の生息・生育環境の説明が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千鳥ヶ淵の再生は、皇居の森との連続性で、あるべき姿を考えるのが適切だと考える。そのため、皇居の森の生物などのデータが、より分かる形になっていると、議論に役立つのではと感じた。(高村委員) <p>※検討会後にいただいた意見</p>	「3. 目指す姿」の(3)要素毎の目標像のうち、①生物の生息・生育環境において、「皇居の森」に関するコラム(p.53-54)を追加。
要素ごとの目標像(目標設定)	<p>○定量的な目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランの実現可能性の観点から、ひとつひとつの項目に定量的な目標をしっかりと設定すべき。(関委員) <p>○生物に関しては順応的管理が適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定やロードマップ作成、バックキャスト等によく言われる議論であるが生態系の保全や生物多様性の保全は不確実性を多く伴うことであるので、順応的に実施するというのが適切である。(高村委員) <p>※検討会後にいただいた意見</p>	環境再生の性格上、モニタリングしながら順応的管理を進めて行くこととし、数値目標は設定しないこととした。順応的管理についてコラムで説明(p.62)。

項目	意見要旨	対応
	<p>○スケジュール感が欠如</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、ホテルの安定性が保たれたということに対しての、評価基準や評価方法、誰が評価するのかということがわかりにくい。現在はスタートはあるがゴールが見えないという記述になっている。(土屋委員) 	<p>「5. 再生プランの実施」において、短期・中期・長期のスケジュールを明示。また、環境省皇居外苑管理事務所としての今後の事業の方針を示した「千鳥ヶ淵環境再生事業方針」を別途作成する(資料7参照)。</p>

(2) 各要素に対する意見

項目	意見要旨	対応
生物の生息・生育環境の保全・再生	<p>○公園管理とのバランスが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物の管理には、人が快適に過ごせるという公園管理の視点と、生物多様性を高める視点の管理がある。これら相反する視点のバランスを保つ必要があることを記述すべき。その実現のために下草の刈り方等を工夫してもよい。(高村委員) 	<p>基本的にはこの地域では生き物を増やしていくための管理を行うが、他の制約条件との兼ね合いや利用と保全のバランスをとりながら管理を進める。</p> <p>定量的な目標の設定は行わないが、目標の中で外来種の記載を行った。駆除の記録を残し、今後の生物の生息・生育環境の保全・再生に活用していく。</p>
	<p>○外来種駆除の記録を残すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 牛ヶ淵では外来魚の駆除に成功したということだが、いつごろ、どのような対策で駆除したといった記録を残しておいた方がよい。(高村委員) 	
	<p>○外来種対策には思い切った目標設定を</p> <ul style="list-style-type: none"> 千鳥ヶ淵周辺に生息している生き物たちは、外来種の影響でぎりぎりの状況にある。象徴としての生物多様性を謳うのであれば、外来種はすべて駆除するくらいの思い切った目標が必要ではないか。(関委員) 	
サクラ	<p>○サクラの歴史は尊重すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> サクラが歴史とは関係が薄いとしても、千鳥ヶ淵を構成する重要な要素であることには変わりがないため、17頁のようなネガティブな記述は避けるべき。(島崎委員) <p>【西村座長】プラスの書き方にすべき。</p>	<p>サクラに関連する記述は、プラスの印象になるよう表現を修正。</p>
	<p>○サクラの取扱は慎重にすべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来種の導入を誘発しないよう慎重に記載すべき。(関委員) 	

項目	意見要旨	対応
ホタル	<p>○千鳥ヶ淵でホタルが楽しめるよう早期に具体的な行動を起こすべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルをただ増やすのではなく人々が楽しめることが重要。調査・検討も重要だが、具体的な取組に移すべき。(岡田委員) 	<p>ホタルは、生物の生息・生育環境の改善状況を示す指標となる生物種のひとつに位置づけ、バランスのとれた生態系を目指すため、ホタルのみを取り上げた利活用は行わない。</p>
	<p>○利活用面の位置づけが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルを保全だけでなく、利活用にも位置づけるべき。ホタルを千鳥ヶ淵の環境再生の象徴として、サクラと同じくらいの観光資源になり得る可能性がある。(土屋委員) 	
	<p>○ホタルを保全の象徴とする意味づけが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の生き物を保全の象徴として使うことは、生物多様性の保全が一般の方にわかりにくいため使われる手法であるが、生態系のバランスという観点からは弊害もある。ハイケボタルを増やすことが、どのような環境・生態系再生を意味するのかについてより明確にする必要がある。(高村委員) <p>※検討会後にいただいた意見</p>	
濠・水質	<p>○浮葉植物（ハス、ヒシ等）の景観上の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、牛ヶ淵には抽水植物（ハス、ヒシ等）が見られるが、千鳥ヶ淵でもかい掘りをするところらが出てくる可能性がある。景観上はどのように扱うのか。(浅枝委員) 	<p>牛ヶ淵では、浮葉植物をプラスの要素とは評価しておらず、かなりの部分を除去している。千鳥ヶ淵でも同様に抑制していく方針。</p>
	<p>○江戸時代の水質の再現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かい掘りにより、蓄積している底泥からアオコが出る前の種が出てくる可能性がある。それを環境再生に活かして、江戸時代の濠の環境の再現につなげてもらいたい。(長委員) 	<p>千鳥ヶ淵は下水が入って時間が経っていることもあり、底泥が今とても悪い状況にあるが、基本的にはシードバンクの発芽試験等で活かす方向で考えている。また、ボーリングの際に江戸時代の植生を解明できるとのことなので、活用していきたい。</p>
	<p>○再生プランにおける水質の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質を再生プランで扱わないのはこちら側の都合。一般の方が読んで違和感がないよう配慮が必要。(西村委員) 	<p>「3. 目指す姿」の(3)要素毎の目標像に④水質を追加 (p.55-56) するなど、修正を行った。</p>

意見募集結果と意見への対応

「千鳥ヶ淵環境再生プラン(案)」について、広く一般からの意見を聞くため、平成 25 年 2 月 8 日から 2 月 28 日(木)までの間、郵送、ファックス及び電子メールにより、意見募集を実施。その結果、3 名の方から計 9 件のご意見が提出された。ご意見の内容と対応は以下の通り。

NO	ご意見		ご意見への対応
	該当箇所	意見内容	
A	77 頁 良好な 補給水の 確保	千鳥ヶ淵を含めた外苑濠の水量は、雨天時の越流防止対策によつて、今後、一層、減少することが想定される。そのため、p. 56 の暫定目標値や改善目標値を達成するため、また景観維持等のために必要な水量を算出し、その供給先、供給量についての計画を具体化することが重要。	<p>p. 77 「②良好な補給水の確保」の 2 つ目の○として以下を挿入します。</p> <p>○今後、外苑濠の水質改善、安定及び景観の維持に必要な水量を算出し、その供給先、供給量についての計画的な取り組みを具体化することが重要である。(理由)</p> <p>外苑濠水質改善計画における良好な補給水の確保の考え方として、ご意見にある考え方は含まれており、千鳥ヶ淵における取組を進めるにあたって重要であるため。</p>
B-1	34 頁	昭和 54 年、この時は「四季の道」ではない。「千鳥ヶ淵緑道」と呼ばれるようになった。平成 21 年の再整備時に「四季の道」となった。	<p>ご指摘のとおり誤りがありましたので、以下のとおり修正します。</p> <p>旧 千鳥ヶ淵緑道は「四季の道」として整備され、 新 千鳥ヶ淵緑道が整備され、</p>
B-2	57 頁 60 頁	浮島の写真は p. 64 の北の丸公園内のものが正しく、前記 2 か所は地図表記が間違っている。	<p>ご指摘のあった写真は、生物環境再生の手法のひとつとして浮島のイメージを説明したものです。誤解のないようにに他の施工例写真に差し替えます。</p>

No	ご意見		ご意見への対応
	該当箇所	意見内容	
B-3	—	再生計画では水浄化が第一。中期・長期計画の中で区民が問題意識を持ち続けて、少しでも知識をひろげていけるように、さくら美守り隊も微力ですが頑張っていきたい。	環境省として、外苑藻についての現在の最も重要な取組は水質改善ですが、本環境再生プランは、取組による一定の水質改善を前提し、それからの取組について記述しております。 なお、ご意見にあるような既存の取組との連携、協力は環境再生プランの実施にとって重要であるため、p.79「5再生プランの実施(2)連携協働及び広報の推進」の1つ目の○に、2つ目の・として以下を追加します。 ・関係する既存の取組との連携、協力を進めるため、取組の主体や関係者間の連絡会議等に対して環境再生プランの情報提供や連携の働きかけを行う。
B-4	—	時代とともに自然は上手に変化していくものだが、今の人間の都合で強制的に変化させても持続するものではない。積み重ねられた歴史の中でも、自然はしっかりと自己主張していくことを再認識させられた。この限られた場所を保全していくことは、「狭い場所だからできる」のか「狭い場所だからできないのか」ちよつと不安。しかしこの景観を日本人として守っていきたい。	貴重なご意見として今後の環境再生プランの実施の参考とさせていただきます。

NO	ご意見			ご意見への対応
	該当箇所	意見内容	理由	
B-5	—	セイタカアワダチソウが結構多くある。駆除したい。	—	セイタカアワダチソウなどの外来植物は、堤塘等の生物にとつての環境や皇居・江戸城跡の影響に大きな影響を与えていると考えられます。p.64「④皇居のとの一体性を確保するための取組等」において、「皇居の森との一体性から見てふさわしくない樹木・草本」として伐採等する等、（他に景観面でも取組）の取組を進めます。
C-1	—	千鳥ヶ淵は日本を代表する素晴らしい場所であり、国民としての誇りだと思ふ。ぜひ、再生プランを、早急に行うして頂きたい。	—	貴重なご意見として今後の環境再生プランの実施の参考とさせていただきます。
C-2	—	周囲の環境整備も重要な課題。特に、九段坂病院跡地や、その他の今後空地になる場所は、建物を建築するのではなく、ぜひ公園スペースにして頂きたい。	世界の大都市と比較し、東京は公園のスペースが少ない事と、将来予測される、災害時の避難スペースに必要。また、温暖化対策の意味からも、公園スペースは必要。	ご意見をふまえ、p.75「利用の推進」【千鳥ヶ淵周回ルートについて】の末尾に・を以下の様に追加します。 ・千鳥ヶ淵周回ルートでの散策利用の促進の観点から、利用空間の創出やアクセスについて関係機関への情報提供や働きかけを行う。 また、景観からは、p.73「⑤都市的要素との景観形成」に「周辺ビルとの景観については、日本を代表する都心の景観として一体的に調和する美しい景観形成を関係機関が連携して進める」とあるように、関係機関との調整、働きかけを行っていきます。

NO	ご意見		ご意見への対応
	該当箇所	意見内容	
C-3	—	<p>桜の時期は、非常に多くの方が見学されるが、公共交通網のキャパシティをベースとして入場者数を考慮しないと、安全面で不安がある。</p> <p>特に、この桜の時期は、地下鉄の利用者数に対して、駅から地上への通路は狭く、非常に危険な状況である。事故が発生する前の対策が望まれる。</p> <p>此の様な事は、多方面に関係し、特に千代田区の方針も重要だと思いが、ぜひ、クロスファンクショナルな視点で、大局的にご検討頂きたい。</p>	<p>ご意見については、サクラ関係の連絡協議の場等で紹介し、関係機関との情報共有を図りたいと思います。</p> <p>また、本環境再生プランでは、サクラの時期への過度の利用集中を課題としており、自然歴史、周回ルートからの景観等サクラ以外の魅力を発信することや、四季を折々に楽しむことのできる植栽などの取組を進めることとしていきます。</p>
			理由

【参考】長委員からのご意見

NO	ご意見		理由	ご意見への対応
	該当箇所	意見内容		
A		景観の目標像に、魚の泳ぐ姿が見られること（魚影で癒される）。	—	生物の観点から景観の目標を示すことは重要と考えられることから、p.55「②景観」の1つ目の○に、2つ目の・を以下のように追加します。 ・ハイケポタルやヒカリゴケなどの希少な生物をはじめ、様々な鳥、魚、昆虫の姿が森、草原や水面で見ることができると。
B		資料「新旧施設計画」の計画水量、浄水水量欄の水質シミュレーション通りに、半蔵濠へ14,000m ³ 分水と放流が維持されると、千鳥ヶ淵水環境再生は、ほぼ達成されると考えます。	—	貴重なご意見として今後の環境再生プランの実施の参考とさせていただきます。
C		外来の魚類対策として、その魚類のルアーによる魚釣りイベントを、定期的に開催して、釣りあげられた外来魚と在来魚を、専門家立会で選定し外来魚除去を計る、概要で外来魚除去の具体化のため、今後の検討の一つとして提案します。	—	今後の千鳥ヶ淵周辺における外来生物対策の検討の中で参考とさせていただきます。

下水越流の栄養塩流入停止と濠水浄化放流水量の水質シミュレーション計画が推進されれば、浄化施設による栄養塩除去が徐々に進み、目標像に、提案の魚の泳ぐ姿が見られる景観も達成され、その他へ皇居外苑濠および千鳥ヶ淵の生態系へ波及効果が考えられます。

